

\$+ % \$)

(

\$* \$% %\$ \$* '#



S% %*

%#

J98

J98

J98









JFEスチール千葉地区におけるマネジメント・環境管理体制の抜本的建て直し (1/3)



開始時期
2005年4月

に伝えた。

連日の朝ミーティング

所長・全副所長・部長が毎朝環境ミーティングを開催。(所長は千葉・京浜交互出席)
前日の環境データ、パトロール結果、環境関連のトラブルを環境管理部、及び担当部門(協力会社を含む)より報告。

2005年4月

その場で改善方針を審議、決定し、日々のPDCAが確実に回るように幹部より指導を実施。
実施結果は、eメールにて所内の全部課長、及び主要協力会社に配信し、指示の完全周知を図っている。

環境にわずかでも影響を与えるトラブル(例:道路上の油膜等)は、休日・夜間に関わらず全件を幹部まで報告

2005年4月

幹部パトロールによる所属指導

環境・防災に焦点を絞った副所長をリーダーとした環境・防災パトロールを7月以降毎月実施
問題点については、予算処置も含めてその場で改善方向を審議決定し、速やかな改善に結び付けている

2005年7月

現場一線作業員までの意識改革

所長・統括マネージャー研修会の実施

現場の最高位で要である統括マネージャーの研修会を開催し、「災害隠し」「重大トラブル」等のテーマについて、全員から所長が直接意見を聞くとともに、ひとり一人にトップが自らの思いを語りかけることにより、所方針への正しい理解と納得感を持たさせる。千葉・京浜で合計5回実施。

2005年8月

高感度貢献表彰制度の導入

環境・防災・安全・品質等で、本人の貢献によりトラブルの未然防止等を実現した場合に本人を所長表彰する制度を導入し、社員・協力会社社員のモチベーションを高めるために役立てている。

2005年7月

安全・防災・環境への投資

現場が困っている案件や、作業性改善のために現場が最も望んでいる案件を各部門にリストアップさせ、全てについて実施を決定した。予算規模は千葉地区で約4億円。

2005年9月

安全・防災・環境への会社としての姿勢を具体的に示すことで、現場モラルの向上につなげる。

JFEスチール千葉地区におけるマネジメント・環境管理体制の抜本的建て直し (2/3)

		開始時期	
		2005年 1月28日	
従来		2005年7月	
各部門の 役割明確 化と完全 な実施	環境負荷発生 部門の意識改 革	環境管理部門 の権限強化 <p>環境管理部の権限に工場停止命令を盛り込み、製造部門への指導を強化。 (文書)・環境管理部業務分掌・『東日本製鉄所環境管理規定』</p>	2005年4月
		人員増強 <p>各部門に環境対応設備の運転・保守、及び環境監視のため、22名の増員を実施した。 環境関連の設備改善計画業務等に対応するスタッフとして、10名の増員を実施した。総計32名。</p>	2005年2月
		環境教育・研修 の実施 (自部門の環境 負荷低減義務) <p>製造部門、及び構内の関連会社の管理者を対象に教育・研修会を繰り返し開催し、環境保全意識・コンプライアンス意識の浸透を図った。(合計 6回実施)</p> <p>この場で、各製造部門は、自工場の環境管理責任を有することを繰り返し指導し、周知した。 緊急環境研修(社員・協力会社管理者) 2月7日実施 同上研修会(構内全協力会社対象) 5月・6月 計3回実施 水濁法・公害防止協定教育 4月 計2回実施 (詳細は『協定の教育』の項参照)</p>	2005年2月
		公害防止管理 者資格取得推 進 <p>今年の秋から、3ヶ年計画でエンジニア全員に公害防止管理者の資格受験を義務付けた。 千葉地区に受験対象者が238名いるが今年は135名受験。受験により、知識と環境保全意識を向上させる ことが 目的のため、受験者に対し、大気・水質ともに各10回の社内講習を実施し、受験に望んだ。 この結果、合格率は、約46%と全国平均の30%弱を大幅に上回ることが出来た。 今年度中に千葉地区全11工場に公害防止管理者を配置する。</p>	2005年9月
		協定の教育 <p>水濁法・公害防止協定教育(全社員対象) 4月14日以降、各部門で教育を行い合計約2,200名受講 公害防止協定読み合わせ(統括マネージャー以上・協力会社幹部) 4月21日実施</p>	2005年4月
	設備改造時の 協定手続きを 標準化 <p>事前協議を抜けなく確実に実施するために、『設備投資管理規定』を改定し、設備の改造・解体等の全ての 案件 について、申請段階で環境防災室長の承認を得る仕組みとして、現在運用中。</p>	2005年4月	
	公害防止協定 遵守への取組 み		

